

次の文により問題 27、問題 28 に答えよ。

47 歳の男性。アルコール依存症。30 歳代後半から仕事のストレスのために飲酒量が増え、40 歳ころから高脂血症と肝機能障害とがある。年末年始に連続飲酒の状態となり、妻と両親に付き添われて精神科を受診した。アルコール専門病棟へ入院し、2 週目に作業療法が開始された。

**問題27** 導入時の評価で重要度の高いのはどれか。2 つ選べ。

1. 離脱症状
2. 飲酒状況
3. 基礎体力
4. 就労経験
5. 家族関係

**問題28** この時点での作業療法で適切でないのはどれか。

1. 体力の向上を図る。
2. 合併症に関する心理教育を行う。
3. 仕事のストレスについて話し合う。
4. 生活技能訓練 (SST) を行う。
5. 自助グループを紹介する。

次の文により問題 29、問題 30 に答えよ。

23 歳の女性。統合失調症。短大卒業後、事務員として働いていた。職場の同僚に噂されていると上司に訴えるなど、被害関係妄想が強まり精神科に紹介され入院となった。薬物療法で精神症状は治まり、2 週目に作業療法が開始された。

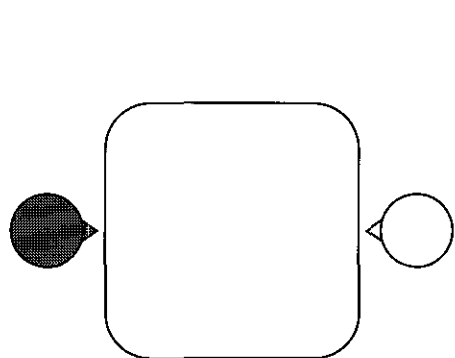
**問題29** 作業療法導入時の面接事項で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 症状の内容
2. 睡眠の状態
3. 職場のストレス
4. 過去の親子関係
5. 現在困っていること

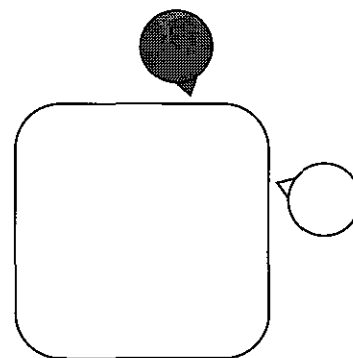
**問題30** この時期の作業療法で適切なのはどれか。2 つ選べ。

1. 職場復帰に向けての訓練
2. 他患者との場の共有
3. 対人交流技能の訓練
4. 金銭管理の練習
5. リラクゼーション

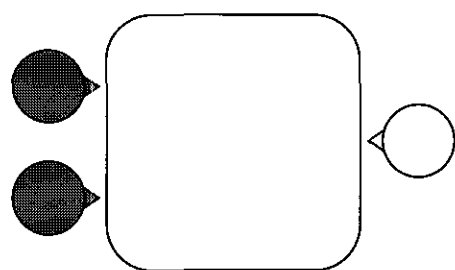
問題31 統合失調症(回復期前期)の患者に対する作業療法導入時の面接場面で適切なのはどれか。



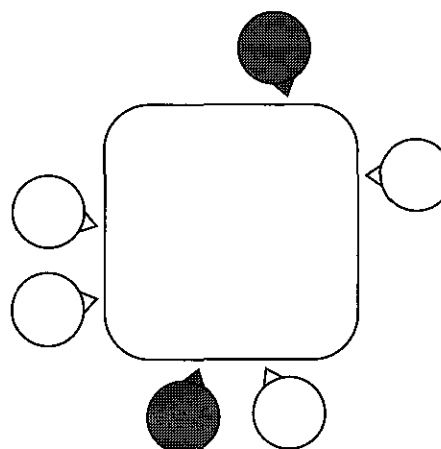
1



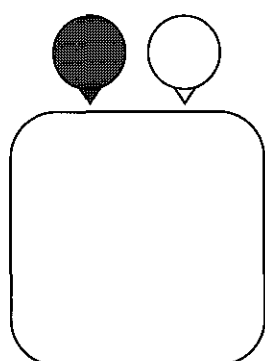
2



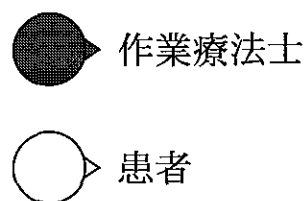
3



4



5



次の文により問題 32、問題 33 に答えよ。

48 歳の男性。妻と二人暮らし。昇進後しばらくして、不眠・食欲不振等の体調不良を訴え始めた。些細な事を気にして「考えがまとまらない。楽しいと感じることがない」などと言ってふさぎ込むようになった。近くの精神科病院を受診し、うつ病と診断され入院となった。入院後 1 か月で睡眠が取れるようになったが、抑うつ気分は続いている。この時点で作業療法が開始された。

**問題32** 作業療法開始時の目的で適切なのはどれか。2 つ選べ。

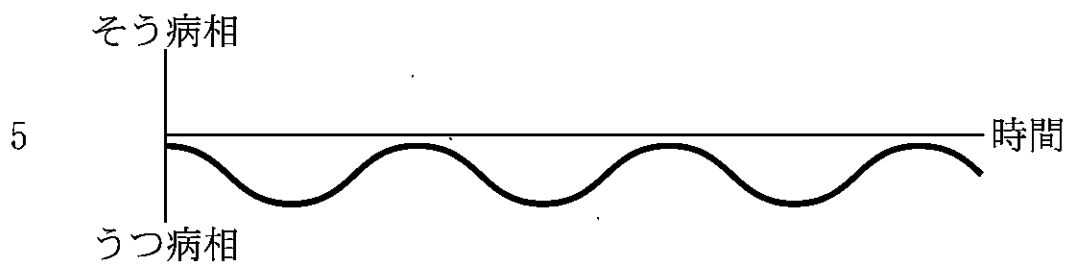
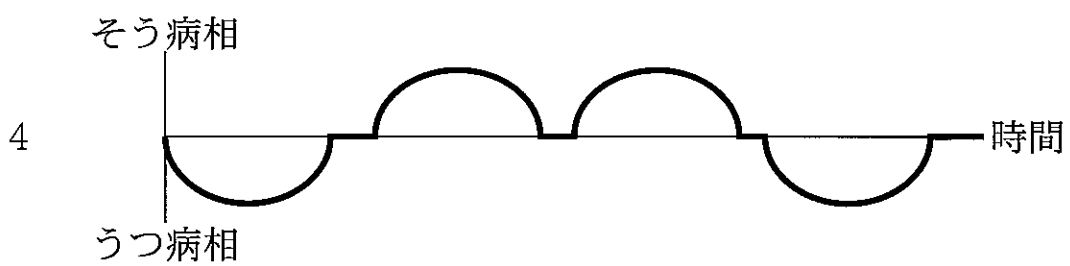
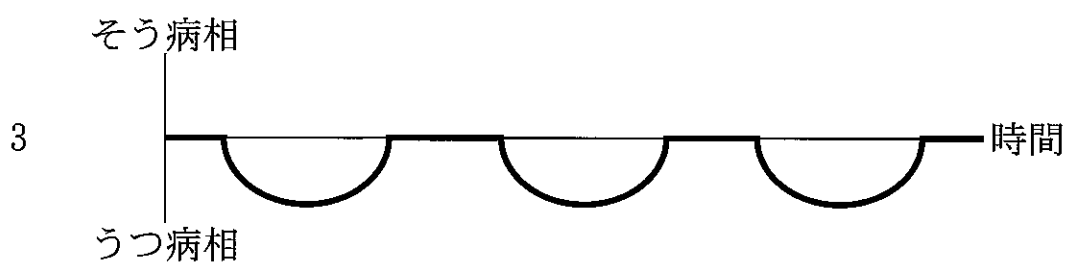
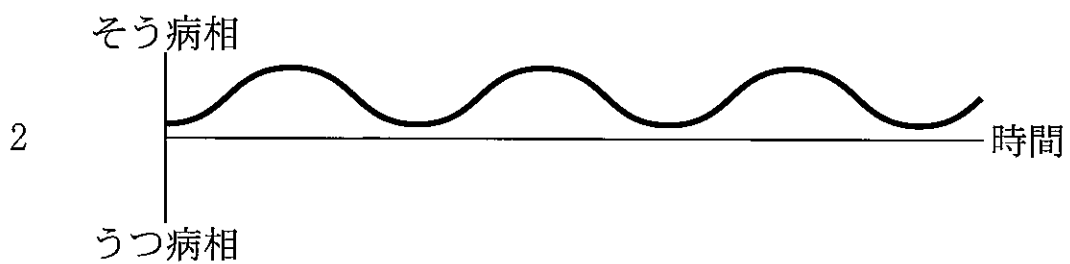
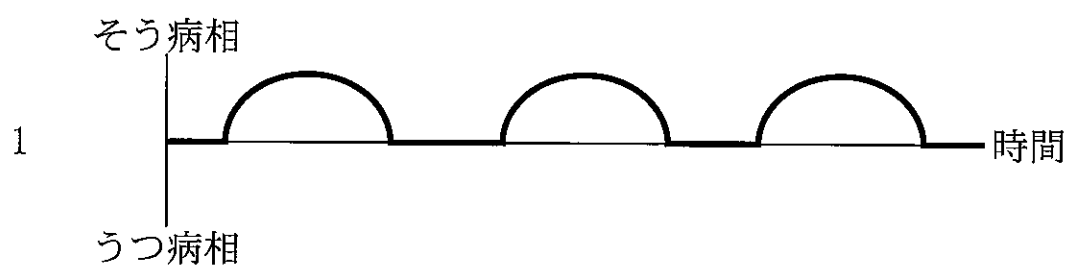
1. 病状認識の促し
2. 病前生活への復帰
3. 生活リズムの回復
4. 社会的役割の提供
5. 不安の軽減

**問題33** 2 か月後、症状は改善し順調に作業療法室に通うようになった。

この時点の行動様式として特徴的なのはどれか。2 つ選べ。

1. 他の患者の作業を手伝う。
2. 休憩を取らずに作業を続ける。
3. 心気的な訴えが増える。
4. 活動を楽しめる。
5. 職場に頻回に連絡する。

問題34 双極性障害を示す図はどれか。



次の文により問題 35、問題 36 に答えよ。

18 歳の女子。高校生。好意を寄せている男性について「彼はスマートな子が好きらしい」という話を友人から聞いたことをきっかけにダイエットを始めた。食べたいという気持ちと痩せたいという気持ちを両立させるため、“食べた直後に故意に吐く”という行為を繰り返すうち、食べ物の量と食べる回数とが増えていった。冷蔵庫の中身の異常な減り方に気付いた母親に連れられ精神科病院を受診した。

**問題35** この疾患の特徴はどれか。2つ選べ。

1. 思考障害を伴う。
2. 自傷行為は認めない。
3. 身体図式の障害がみられる。
4. 男性にもみられる。
5. 社会的価値観に左右されない。

**問題36** この時期の作業療法士の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 作品の自己管理を促す。
2. 患者の得意な作業種目を提供する。
3. 工程数が多い作業を取り入れる。
4. その都度作業の進め方を指示する。
5. 集団作業療法を導入する。

次の文により問題 37、問題 38 に答えよ。

8歳の男児。自閉症。小学校に入学後、好きな算数以外の授業中に奇声をあげるようになった。家ではこだわり行為を制する母親に暴力を振るうようになり、養護教諭の勧めで児童・思春期外来を受診した。受診後すぐに作業療法が開始された。

**問題37** 患児の行動で予測されるものはどれか。2つ選べ。

1. 質問し終わる前に答え始める。
2. 話しかけに応じない。
3. 同じことを繰り返し聞いてくる。
4. しゃべり続ける。
5. 他者の邪魔をする。

**問題38** 作業療法士の対応で適切でないのはどれか。

1. 算数を取り入れたプログラムを設定する。
2. 質問は口頭だけでなく文字に書いて示す。
3. 作業療法の終了時間を明確にする。
4. こだわり行為は制止する。
5. 1対1で対応する。

次の文により問題 39、問題 40 に答えよ。

21 歳の男性。知的障害。養護学校の高等部を卒業後、魚屋に住み込みで 3 年間働いていた。接客をすることになったころから、腹痛で休みがちとなった。つり銭を間違えたことがきっかけとなり、自分の頭を壁にたたきつけるなどの自傷行為がみられるようになり、精神科に入院となった。入院 1 週後に作業療法を開始した。

**問題39** この患者の行動特性はどれか。2つ選べ。

1. 同じ動作を繰り返す。
2. 1つのことにこだわる。
3. 感情表出が苦手である。
4. 単純な作業は得意である。
5. じっとしてられない。

**問題40** 復職に向けた支援で重要でないのはどれか。

1. 住み込み先への外泊
2. 苦手な作業の確認
3. 体力の向上
4. 対人技能の訓練
5. 職場との調整